

2004年 8月 第15号 By FP Compass

### 暑中お見舞い申し上げます。



#### 1. 新潟県と福井県で記録的豪雨による大規模洪水被害発生

新潟県内では、記録的豪雨により約25,000棟の民家が浸水し、死者も14名と最近ではまれにみる大規模な損害になりました。

そして、今度は福井県でも記録的豪雨に見舞われ県内で、約11,000棟もの民家が浸水し、そのうち178棟が全半壊となり、死者及び行方不明者は5名となりました。

両県とも車両の水損もかなりの数になっています。大規模洪水が続けて発生し、テレビや新聞等で被害状況の報道を見るたびに、自然の脅威をさまざまと見せつけられた思いです。

今回は、年配の方の犠牲者が多く、防災無線等の地域住民に対する連絡方法やタイミングに非難の声が挙がっています。

もちろん、行政当局には、地域住民の安全のために、万全の体制を整えて頂くのはもちろんですが、私たち住民も、常日頃から防災意識をもっていることも重要となります。

山形市等では、河川による洪水ハザードマップを作成しており、各戸に保存出来るようになっています。

まずは、中身を家族みんなで読むことが必要となります。

そして、万一、洪水になったときは、どのエリアや施設に避難するか、家族で相談する事は、大変重要となります。避難先は地震時も想定した避難先が良いでしょう。

最近では治水工事もかなり進み、洪水という災害は起きにくくなっています。

しかし、地球温暖化の影響かその他の影響か判りませんが、記録的豪雨とか記録的気温と言う気象用語を頻繁に、聞くようになると、山形盆地においても、蔵王山系に新潟や福井のような記録的豪雨が降れば、関係河川はみるみるうちに溢れることも想像出来ます。

ぜひ、ご家族でハザードマップを拡げて見て下さい。

そして、忘れてはいけないリスクファイナンシング（リスク対応財務的手段）として、建物、家財には水害補償に強い火災保険。車には車両保険が最も合理的な手段と言えます。

最近の火災保険は、リスク細分型になってきてます。水害を100%補償するワイド補償や、逆に水害を不担保にして保険料を安くするタイプがありますので注意して下さい。

水害補償の充実を検討の方は、あいおい損保の家庭総合保険のワイドを選択すれば、現時点では最高水準の水害補償（床上浸水または地盤から45センチ以上の浸水で、建物・家財の再調達価額の30%以上の損害を被ったとき）が得られます。

詳細は、同封のパンフレットをご参照、または弊社までお問い合わせください。

## 2. ここがへんだよ日本の保険

今回は生命保険の保険料の話をしたいと思います。

物の値段というのは、一元的には決めることは出来ません。私は消費者の価値観に基づき価額は決定されるものと思っています。

例えば、同じ様な機能のバッグがあると仮定すると、一つは無名のメーカーでもう一つは超一流のブランドメーカー製となれば、その商品の価額は、数倍またはそれ以上の開きがでることもあります。高額なバッグでも、信頼感や所有の満足感など消費者の満足度が高ければ、高額なプレミア価格にも納得して払います。

生命保険の保険料は、当局（金融庁）の認可制度にて決定されます。

従来の許可制度と比較して、商品開発速度と市場展開速度のアップと保険料の差別化は増したもの、まだまだ、当局の統制感は否めません。

保険会社にとってのブランドイメージは、従来そのほとんどが知名度でした。

これは保険料も統制された時代においては、競争もなく単に、売上のボリュームやシェア拡大だけの戦略で良かったからです。知名度を上げることが売上増につながりました。

しかし、現在では商品力、財務力なども大きな要因となってきています。もちろん知名度は今でも大きな要因となります。

昨年度、生命保険業界で大きな変化がありました。それは、トリプルAの外資系生命保険会社が売上を大幅に伸ばし、国内生命保険の大手社の一角を担うまでの成長を果たしました。

テレビでの宣伝を大々的に且つ集中的に行うことにより、子どもからお年寄りまで、知名度は格段にアップしました。

また、消費者の心をくすぐる商品（プロの目から見るとそうとは思いませんが）、保険料が比較的安く、また、誰でも入れる（一般保険商品の診査基準は業界で最も厳しい）というイメージがうまく浸透し相乗効果抜群の広告戦略が効を奏しました。

金融保険の先進国の欧米では一般的に財務内容がしっかりしている保険会社ほど、保険料は高く設定しています。高くとも契約者は安心感というプレミアムを納得してくれます。

反対に財務内容が悪い保険会社では、契約者は選択してくれませんので、保険料のデスカウントをしなければ契約してくれません。これは、市場原理に則していることになります。

しかし、わが日本では、その市場原理が働いておりません。

金融自由化とはいうものの、形式上の消費者保護という観念の基、消費者が簡単に保険の比較が出来ない事情があります。

真の自由化というのは、商品の比較検討のための情報公開がしっかり出来ているのかということと、消費者サイドも軸のぶれないしっかりした商品知識や金融商品に対する理解力が求められます。

通信販売の保険や手頃な共済が人気を博しています。これらの商品は比較的仕組みが簡単に出ていますが、保険を全く理解できていない方が買われている場合が多く、誤った使い方や、勘違いしている方が目立ちます。本来、このような商品は、ライフプランを考慮の上保険商品や仕組みを熟知している方のみが採用できる商品だと思います。

話を戻しますが、財務内容や商品力が優れている保険会社はプレミア価額を提示できるのは理解できますが、そうでない保険会社が、前者よりもさらに高いプレミア価額にての提示している我が日本での状況は、はたして正常なのでしょうか。

### 3. リスクのクスリ

#### 外部専門家の活用

##### ☆外部専門家活用の意義

リスクの構造は、社会経済の複雑化に呼応してますます複雑化しており、特定の専門分野で解決出来た縦のマネジメントに加えて、複数の専門分野にまたがる横のマネジメントが必要となっています。

リスクマネジメントにおいては、1つのリスクを解決するためには、複数分野の専門家の知恵を結集することが有効な場合が多く、リスクマネージャーの役割の中でも、これら専門家をコーディネートすることが重要な位置を占めます。

##### ☆リスクマネジメントにおける外部専門家活用とは

企業の外部からリスクマネジメントに関するサービスを提供している外部機関・専門家を列記しますと

###### ①リスクマネジメントコンサルタント

リスクに関する総合的なコンサルタントであり、各リスクに関する専門家とパートナーシップを組んでおり、個別の分野についてのコーディネートも実施できる。

###### ②保険会社

保険会社では様々なリスクマネジメントサービスを提供しています。

防災診断や安全講習会、様々なリスクマネジメント情報といった事前対策等を提供。

事故処理サービスは、損害の調査・査定、そして示談等の法的サービスも提供していますので、企業や個人の労力やコストの削減に大きく寄与しています。

###### ③保険ブローカー・代理店

リスクコンサルタントと同様のスキルをもって、総合的なリスクコンサルティングを行うことが出来、リスクファイナンシングとしての保険の位置づけを理解していることが重要となります。

###### ④弁護士・司法書士

規制緩和や自由化社会ではコンプライアンス（法令遵守）が重要となり、むしろ法務リスクは増大しています。弁護士の専門分野も細分化されていますので、専門分野を見極める必要があります。

###### ⑤会計士・税理士

財務リスクコンサルティングに最も近い位置にいます。企業財務のみならず事業承継や相続のリスクも増大しています。迅速かつ正しい経営判断をするためのコンサル能力が必要。

###### ⑥社会保険労務士

雇用のリスクは増大化しています。雇用、労災などのリスクマネジメントは大変重要です。また、企業年金等の様々な問題解決にも専門家として期待されています。

その他、様々な専門家が関わってこなければならない事もあります。

専門家はクライアントに対し、「高度注意義務」「誠実義務」「インフォームドコンセント義務」そして「守秘義務」があり、忠実に履行しなければなりません。

また、クライアントとしても正確かつ十分な情報開示をしないと、誤ったコンサルティングに陥る可能性がありますので、留意していかなければなりません。

2004年 8月 第15号 By FP Compass

### 暑中お見舞い申し上げます。



#### 1. 新潟県と福井県で記録的豪雨による大規模洪水被害発生

新潟県内では、記録的豪雨により約25,000棟の民家が浸水し、死者も14名と最近ではまれにみる大規模な損害になりました。

そして、今度は福井県でも記録的豪雨に見舞われ県内で、約11,000棟もの民家が浸水し、そのうち178棟が全半壊となり、死者及び行方不明者は5名となりました。

両県とも車両の水損もかなりの数になっています。大規模洪水が続けて発生し、テレビや新聞等で被害状況の報道を見るたびに、自然の脅威をさまざまと見せつけられた思いです。

今回は、年配の方の犠牲者が多く、防災無線等の地域住民に対する連絡方法やタイミングに非難の声が挙がっています。

もちろん、行政当局には、地域住民の安全のために、万全の体制を整えて頂くのはもちろんですが、私たち住民も、常日頃から防災意識をもっていることも重要となります。

山形市等では、河川による洪水ハザードマップを作成しており、各戸に保存出来るようになっています。

まずは、中身を家族みんなで読むことが必要となります。

そして、万一、洪水になったときは、どのエリアや施設に避難するか、家族で相談する事は、大変重要となります。避難先は地震時も想定した避難先が良いでしょう。

最近では治水工事もかなり進み、洪水という災害は起きにくくなっています。

しかし、地球温暖化の影響かその他の影響か判りませんが、記録的豪雨とか記録的気温と言う気象用語を頻繁に、聞くようになると、山形盆地においても、蔵王山系に新潟や福井のような記録的豪雨が降れば、関係河川はみるみるうちに溢れることも想像出来ます。

ぜひ、ご家族でハザードマップを拡げて見て下さい。

そして、忘れてはいけないリスクファイナンシング（リスク対応財務的手段）として、建物、家財には水害補償に強い火災保険。車には車両保険が最も合理的な手段と言えます。

最近の火災保険は、リスク細分型になってきてます。水害を100%補償するワイド補償や、逆に水害を不担保にして保険料を安くするタイプがありますので注意して下さい。

水害補償の充実を検討の方は、あいおい損保の家庭総合保険のワイドを選択すれば、現時点では最高水準の水害補償（床上浸水または地盤から45センチ以上の浸水で、建物・家財の再調達価額の30%以上の損害を被ったとき）が得られます。

詳細は、同封のパンフレットをご参照、または弊社までお問い合わせください。